

札幌市立もいわ幼稚園

〒005-0015

南区川沿 18 条 2 丁目 1 番 13 号

【小学校との連携】

もいわ幼稚園と藻岩南小学校ではそれぞれが教育課程（生活科・総合的な学習の時間等）に位置付け、交流活動を中心にして、幼小の交流を進めている。具体的には連携推進を図るために幼小の教師同士で連携プロジェクトチームを立ち上げ、年度当初には、交流の全体計画について話し合いをもち、交流の目的や時期内容について見通しをもつようにしている。

幼児と児童の交流では年中児と 2 年生、年長児と 4 年生が年に 5 回程お互いの学びの違いを考えた上で教師同士で話し合いながら行っている。交流の事前、事後にはビデオレターや手紙を活用したり、施設が隣接しているという利点を活用し、それらを幼児が持参して教室訪問なども行うようにしている。その他にはゲストティチャー授業（幼稚園教諭による）・合同避難訓練・給食交流・学校プール・体育館・図書室などの施設の利用など幼小の学びをつなげていくために様々な連携を行っている。

教師間の交流では園、学校の教師が一同に集い全体研修会の中で交流の成果を共有したり、低学年の教師と「考える力の育成について」の研修会などを行ったりしている。このように実際の子どもの姿や教師の関わりなどを話し合うことでお互いの教育の違いについて考えたり、理解を深めたりすることを行っている。

【成果】

- ・幼児と児童の交流では、小学校へ行き小学生と触れ合う機会を通して小学校が身近な存在となり、児童に親しみや憧れの気持ちをもったり、就学への安心感につながったりしている。
- ・施設が隣接していることを有効に活用することで教師間交流、幼児と児童の交流、施設の利用など多様な交流を通して子どもの見方や指導の考え方の違いなどを知る機会となっている。

【課題】

- ・幼児期の学びの芽生えが小学校教育に滑らかに接続するように今後も交流を通して本園の教育課程、指導計画の見直しを図ることが大切と考える。
- ・交流の大切さや意義は共通理解しているが互いの日程を調整していくことの難しさを感じる。



【体育館で 2 年生に製作を教えてもらっている】



【教頭先生の田植え指導】



【全体研修会の様子】

北海道文教大学附属幼稚園

〒005-0849
南区石山 531

【藤の沢小学校との連携】

6月と11月に年長児と小学1年生で交流をしました。

一度目は、顔合わせも兼ねての集団遊びと、二度目は学習発表会の練習の様子を見学させていただきました。

最初の交流では、1年生に小鳥の村音頭を披露していただいたり、じゃんけん列車をしたり、小学校内の探検をしました。憧れの卒園児との久しぶりの対面に照れている様子もありましたが、1年生を少し身近に感じることができたと思います。



【最初の顔合わせの様子】

【成果】

1年生との交流の中で、親近感や憧れをもてたことで、就学への期待が高まったように思います。

学習発表会の練習を見学したことで、声の大きさなどお手本として発表会の活動に取り組むことができました。



【校長先生のお話】



【アーチをくぐり退場】

【考察】

現在、二度交流の機会がありましたが、子ども同士が関わったのは一度だけでしたので、年度当初に打合せの場を設けて、1年を通しての計画を立てていく必要があると感じました。

社会福祉法人光華園 澄川保育所

〒005-0005

南区澄川5条5丁目5-10

【澄川小学校との連携】

- ・小学生が種から大切に育てたマリーゴールドを毎年7月に持ってきてくれます。

その後、当園では子どもたちが当番で水やりをし、秋にはそのマリーゴールドを摘み、染物やしおりを作り、小学生にお礼をしています。

また、12月頃には1年生から年長が招待され、「なかよしフェスティバル」に参加しています。

1年生が考えた様々な遊びのコーナーがあり遊び方を教わりながら、楽しむ姿があります。

- ・他にも、運動会や発表会を見学に行ったり、ブラスバンド部が演奏に来てくれたりと、様々な交流を図っています。



【澄川小1年生と6年生が育てたマリーゴールドをプレゼントされている様子】



【澄川小1年生が考えた様々なお店で遊ぶ様子】

【成果】

- ・交流をする中で、小学校という場所を身近に感じたり、憧れの気持ちが芽生えたりする様子が見られます。

また、年長は小学校へ実際に行くことで、小学校の雰囲気を感じ、就学への期待を高めたり、不安を和らげているように感じます。

札幌市立南小学校

〒005-0031

南区南 31 条西 9 丁目 2 番 1 号

ようちえんのおともだちと

札幌わかかさ幼稚園との交流

わかかさ幼稚園は、本校の校区にある唯一の幼稚園です。年長さんとの交流会は生活科の学習に位置付いており、子どもたちも楽しみにしています。今年度から交流の一部に光華保育園も加わり、「幼保小」がそろいました。

交流のめあての中でいちばん大切にしていることは、「相手意識」や「思いやり」といったあたたかい心を育み、そして自分の成長に気付かせることです。

【重点目標】

進んで考え ともに学び合う心を育む



学習発表会の練習を見学後、幼稚園と保育園のお友達から歌のプレゼント！

【1年間の活動】

6月 こうえんであそぼう 7月 いっしょにつくろう 10月 学習発表会にご招待
12月 学校たんけん 2月 おみせやさんごっこ・給食交流



「こっちだよ～！」
学校探検の様子



「おっとっと～！」
ボール遊びは
はらはらドキドキ・・・
大興奮なのです！

ともに学び合う心の育み

【交流のよさ】

「役に立ったよ！」 ▶ リードできた・司会がうまくできた
・喜んでくれた・ありがとうって言われた
「おもいやり」 ▶ 小さい子と接するときのあたたかい気持ち
「かかわる喜び」 ▶ みんなで遊ぶと…「すごく楽しい！」

心の充実

【交流のこれから】

- ◎ 交流の時期や内容の工夫
- ◎ 継続を意識した計画
- ◎ 幼保とのバランス

学びの充実



「さよなら！」
「ありがとう！」
「うん、またね！」
次の交流が…
楽しみです！

札幌市立常盤小学校

〒005-0856

南区常盤6条2丁目107番地

【幼稚園との連携】

・連携の様子

年5回の交流を行っている。事前にそれぞれの担任が集まり活動内容の検討や日程の設定を行う会議を設けている。交流では小グループをつくり主にその中で交流を行っている。1・2回目は幼稚園側が小学校に出向いて1年生と交流を行っている。1回目は顔合わせの会として、自己紹介をしたり、グループごとに遊びの交流をしたりした。2回目は、1年生が先生になり幼稚園の子に牛乳パックを使ったおもちゃの作り方を教えてあげる活動で交流を深めた。3回目は学習発表会を見学する機会としている。今年度は3年生の劇を観賞した。4・5回目はまだ実施していないが、1年生児童が幼稚園に出向いて交流を深める。内容としては幼稚園の敷地を利用し、冬の運動会や雪を利用した遊びを行ったり、園児が企画したお店屋さんに参加したりする予定である。その他に、小学校で行う図工の作品展では、園児の作品をお借りし、展示して小学校の全校児童にも観賞してもらった。

・連携先との関係

ときわみなみの幼稚園は本校の校区内にあり卒園生も多く入学している。幼稚園までは徒歩で行き来することが出来る。また、幼稚園との連絡も密にしており、災害時の緊急対応の時なども連携を取り合っている。

【成果】

ときわみなみの幼稚園と連携し子ども同士がお互いのことを知ることで、新1年生が入学の時に抱く不安な気持ちを解消する手助けになっている。学校側では新1年生として入学してくる子どもたちの様子を捉えるよい機会となる。

交流では、子どもたちを小グループで交流させることで、子ども同士の関係が密になり、お互いの関わりがより深まっている。

【考察】

交流することのよさとして1年生の活躍の場が得られることがあげられる。小学校では1年生は手を借りる立場となる事が多いが、自分たちが主体となって活動する機会となるので有効に活用していきたいと考える。

新たな取組としては、5年生と年長組の交流が考えられる。次年度、6年生になった時年長組の子を新1年生として迎え、他学年より深いつながりをもつことから、事前に顔を知っておくとスムーズに学校生活に溶け込むことができるのではないかと考える。



【最初の交流で一緒に遊んでいる】



【工作の時、作り方を教えている】

札幌市立澄川小学校

〒005-0005

南区澄川5条4丁目1-1

【澄川保育所との連携】

- ・澄川保育所は本校の校区にあり、毎年多くの児童が本校に入学するため、以前より連携を大切にしてきた。
- ・夏に1年生と6年生が植えたお花をプランターごと保育所にプレゼントした。秋には、そのお花を使って作った物を保育園の子どもたちがまたプレゼントしてくれている。もう一つは、1年生が生活科で行うお店屋さんごっこの活動にお客さんとして招待し、交流している。その他には、1年生の授業を見学してもらったり図書室での読み聞かせに参加したりするなどの交流も行っている。



【澄川保育所でお花をプレゼントしている様子】

【成果】

- ・連携することで入学前の幼児の様子を見ることができ、入学してから配慮することなどを保育所の先生とも交流することができた。また、保育所の幼児においても1年生の様子を見ることで入学してからの学校生活をイメージすることができ意欲が向上していると聞いている。



【澄川小学校のお店屋さんで一緒に遊ぶ様子】

【考察】

- ・毎年継続することによって、年間カリキュラムの中で活動の見通しをもって、交流することができている。
- ・保育所と小学校の先生間でも話をする場が多くなり、入学前にやっておいてほしいことや小学校に入ってから配慮してほしいことなどの情報交換もスムーズになってきている。
- ・今後は、1年生が保育所の幼児にいろいろなことを教えてあげるような交流の機会をさらに増やしていくことができるとよいのではないかと考えている。

札幌市立北の沢小学校

〒005-0832

南区北ノ沢 1727 番地 5

【 第2 もなみ幼稚園との連携 】

○本校の校区に隣接した地域にある「第2 もなみ幼稚園」とこの6年来、1・2年生の生活科の「ともだち広場」の活動を通じて児童と園児の交流を進めている。

○例年、幼稚園年長組2クラスの園児が本校に園バスで来校し、児童が体育館に設置した遊びのコーナーを巡りながら、楽しくふれあう活動を設定している。



【ともだち広場の遊びのコーナー】



【ようこそいらっしゃいました】



【歌やお礼の言葉で交歓】

- 1) 園児来校
- 2) はじめ（歓迎）の言葉
- 3) 交流開始「ともだち広場」
 - * 遊びのコーナーを巡りながら交流
 - * 26年度：児童 58人と年長組園児 35人
- 4) 歌の交歓・お礼の言葉
 - * 児童から
 - * 園児から
- 5) おわりの言葉

【 成果 】

- 1・2年生が協力して園児とふれあう企画を準備する中で、迎える相手のことを思いやる心が育ってきた。
- 入学を控える園児にとって、小学校への関心や意欲を高めるよい機会となった。

【 考察 】

- 園児の興味に応じて個々に遊びのコーナーを巡る形から、児童とのペアで動く等、「一緒に」作ったり、まねたり、話したりしながら存分にふれあう場となるよう改善を重ねたい。

札幌市立藻岩南小学校

〒005-0818

南区川沿 18 条 2 丁目 1 番 15 号

【もいわ幼稚園との連携】

教師間の交流

〈幼小連携プロジェクト会議〉

開催時期：5月と3月に実施

幼：園長、主任(交流窓口)

年長と年中の交流担当

小：校長、教頭、教務主任(交流窓口)

4年と2年の担任(交流学年)

〈幼小顔合わせ会〉

開催時期：5月に実施

幼稚園、小学校共に全職員が参加

※プロジェクト会議や顔合わせ会は、お互いを
知り、幼小交流の経緯やそのねらいを理解す
ることを目的としている。

保育、授業の参観交流

〈幼稚園公開保育〉

9月1日幼保小連携推進協議会の事業として
開催した公開保育に全職員が参加。

〈藻岩南小学校 第8回教育実践発表会〉

7月8日に藻岩南小学校教育実践発表会を開
催し、もいわ幼稚園の教職員も参会していただ
き、授業や子どもの育ちについて意見をいただ
いた。

〈もいわ幼・藻岩南小学習会〉

小学校の授業を公開し、それぞれの教職員が
参観し話し合いを行う。

※これらの参観交流で、互いに保育や授業につ
いて、理解を深めることを目的としている。

2年生と年中組の交流活動(生活科)

①年中組の友達と遊ぼう(1学期)

- ・小学校に招いて
遊ぶ。運動会の
踊りを披露する。



②育てた野菜と一緒に収穫を祝おう(2学期)

- ・両方で収穫した
ジャガイモを茹
で一緒に食べ交
流を深める。



③雪で遊ぼう(3学期)

- ・小学校のグラウ
ンド(雪山)でチ
ューブ滑り等を
して交流を深め
る。



※1年生から進級した2年生が、自分たちで年
中組の園児を楽しませようと実践する。1年
間の交流を通して、2年生なりの企画力や相
手意識を育てることがねらいである。

4年生と年長組の交流活動(総合的な学習の時間)

①年長組の友達と遊ぼうパート1(1学期)

- ・幼稚園に行って、どのような遊びが好きなの
か調査する。
- ・幼稚園の先生に
来てもらって、
自分たちの遊び
の計画を見ても
らう。



②年長組の友達と遊ぼうパート2(2学期)

- ・1学期のパート1の反省を生かして、遊び
を考える。

③雪で遊ぼう(3学期)

- ・小学校のグラウンドでそり遊びや宝探し、
雪つみ競争等をして交流を深める。小学校
に入学する園児の期待を高める。



※高学年の仲間入りをした4年生が、年長組の
園児のために実践する。1年間の交流を通し
て、高学年としての企画力や相手意識を育て
ることがねらいである。

【西岡高台保育園との交流】

近隣の「西岡高台保育園」の園児と本校の5年生が、年に3回の交流を行っています。5年前に市立「すみかわみなみ幼稚園」の閉園に伴い、新たな連携先を探していたところ、本校の要望を快く引き受けていただいたことで始まった交流です。

取組が始まって4年が経過しましたが、毎年保育園の施設見学から始まり、保育園へ訪問しての園児との交流や、園児を小学校へ招いての交流などを通して、本校の重点である「相手意識を育てる」学習として欠かせない取組となっています。

【成果】

普段は接することのない保育園児との交流。

活動が始まると、最初のうちは、どう接したらよいか戸惑いながら右往左往する場面もありますが、分かりやすい言葉で話しかけたり、手取り足取り遊びを教えてあげたりと、次第に優しく接する姿がたくさん見られるようになります。

徐々にお互いの距離が縮まり、「これ、どうやって折るの?」「どろだんご作って〜。」「これ読んで〜。」と甘えてくる園児たちに、嬉しそうにお世話をする5年生。ちびっ子パワーに押され気味になりながらも、上手に接することができるようになります。

異年齢での交流は、本校の目指す相手意識や、コミュニケーションの力を伸ばすことにつながっています。

保育園の先生の説明に一生懸命耳を傾ける子どもたち。「下駄箱も低くできているなあ。」



【考察】

今後は、他の幼稚園や保育園とも交流し、時間設定の難しさがありますが、子ども同士の交流のみならず、教師同士の交流にも取り組んでいきたいと考えています。

【いしやま中央幼稚園との連携】

近隣にある、いしやま中央幼稚園との交流を長年続けている。毎年、数名が本校に入学してくる。児童が主体となって取り組む「ふれあい子どもまつり」に招待し、子どもたちのアイデアを生かした遊びのコーナーでのふれあいを通して交流を深めてきた。今年度は、かぜ及びインフルエンザが流行したため、実施時期を延期し交流を見送った。

ここでは、24年度から実施している本校の5年生といしやま中央幼稚園の年長組との交流を報告する。9月に2回、相互に学校や園を訪問し交流を深めることを計画した。

8月26日の1回目の交流では、いしやま中央幼稚園を訪問し、この園の特徴であるモンテッソーリ活動で、体を動かすリズム運動を経験した。素早く次々と上手に運動する園児の姿に目を見張る5年生であった。園児とともにテンポ良くリズムカルに次々に行う運動を楽しみ、活動に引き込まれるようであった。



幼稚園でリズム運動をしている

2回目の交流は、9月24日に本校で実施した。園児を迎えるに際して、本校の5年生が学級で話し合いをし、「学校スタンプラリー」をすることになった。小学校の特別教室を中心としたスタンプラリーで、校内探検しながらクイズに答えてもらい、楽しみながら小学校に興味をもってもらうことができた。5年生の児童は、学校を回る園児に寄り添って言葉を掛けたり、園児に分かるようにクイズを出すよう努めていた。

【成果】

もうすぐ小学生になる幼稚園の園児にとっては、一日入学よりもさらに早い時期に小学校を訪れ、5年生という小学校高学年の児童とのマンツーマンのふれあいができ、5年生にとっても、次年度4月になって新1年生のお世話をすることから、どういう接し方をすると相手によく伝わるかを学ぶ機会となり、やがて最上級生になるという意識付けもできた。

1回目の交流で、5年生は、一緒に運動することで若い園児に親しみをもつことができた。また、園児が先生の指示でリズム運動を楽しんだり、きびきびと集団行動したりする姿を見て、幼稚園や園児への理解を深めた。

2回目の交流で、相手意識をもって計画することの大切さ・若い園児との接し方を学んだ。今回の交流の経験が6年生になったときに生かされるであろう。

【考察】

これまで交流を継続してきたことによって、5年生といしやま中央幼稚園との相互交流が定着してきたと言える。また、園児たちを迎える5年生の計画も、児童に話し合わせて自分たちの取組とすることで、その年度によって内容が違い工夫が見られるようになってきた。

関係学年以外の職員に交流の様子がよく伝わらない面があったので、交流の様子を広く伝えていきたい。来年度は、例年交流を続けている「ふれあい子どもまつり」にも参加してもらうことで、全校の児童との交流を深めたい。

今年度の反省をもとに更に工夫を加え、来年度の幼保小の連携・交流を強めていきたい。

札幌市立藤野南小学校

〒061-2284

南区藤野4条8丁目26-1

【藤ヶ丘幼稚園・保育園との交流会】

本校では、すぐ隣の藤ヶ丘幼稚園及び藤ヶ丘保育園の子どもたちと本校1年生とで、交流会「わくわくフェスタ」を実施しています。「わくわくフェスタ」は、本校1年生生活科の学習の一環として、毎年3学期に位置付けられている活動です。「藤ヶ丘幼稚園・藤ヶ丘保育園」の年長の子どもたちを招待し、ゲームや遊びのコーナーをつくって楽しむ活動を計画・実践します。この活動を通し、入学してからの1年間の成長を実感するとともに、進級に向けての期待や意欲をもつことを目標としています。

連携している「藤ヶ丘幼稚園・藤ヶ丘保育園」とは、隣同士という立地に加え、通園するほとんどの子どもが本校に入学することもあり、以前から学校行事や学校公開に参加をさせていただいたり、園の子どもたちが本校で飼育している「うさぎ」を見に来たりと、日常的にも交流があります。

【成 果】

- ・藤ヶ丘幼稚園・藤ヶ丘保育園出身の1年生にとっては、昨年度、この交流会に参加した経験を生かし、高い目的意識と相手意識をもった活動になる。
- ・他の1年生にとっても、1年年上として活動をつくる中で、活動に向けた意欲や進級に対する期待や自信が高まる。
- ・園の子どもたちにとっては、あと少しで入学することになる小学校の雰囲気や楽しさを実感することで、入学に対する期待感や意欲をもつことができる。

【考 察】

- ・日程の調整や事前の打合せなど連絡を密にとり合う中で、活動のねらいや内容を共有し、双方にとって子どもの育ちにつながる活動にしていくことが大切である。
- ・感染症の流行の時期と重なるため、日程については検討が必要である。

子どもたちを迎え、始めにどんなゲームコーナーがあるか説明します。

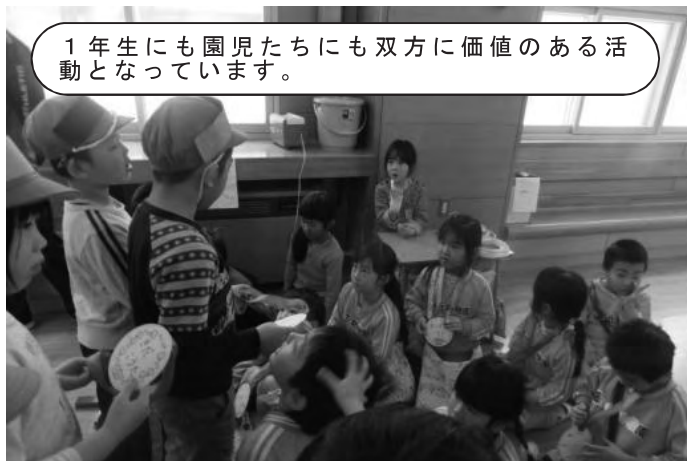


折り紙の折り方をやさしく教える1年生



的当てゲームを一緒に楽しむ1年生

1年生にも園児たちにも双方に価値のある活動となっています。



札幌市立真駒内公園小学校

〒005-0018

南区真駒内曙町2丁目1-1

【学習発表会の劇の公開】

近隣の保育園・幼稚園に連絡を取り、1年生児童の学習発表会の劇の発表に招待をしている。

2年前から、1年生児童の発表会への意欲を高めるため、近隣の保育園・幼稚園を招き、学習発表会の劇を発表している。今年度は、幼保小連携推進協議会の真駒内ブロックの全ての幼稚園・保育園に1学期から、連絡を取り、行事予定に組み込んでいただいた。早めに連絡を取った結果、6園の保育園・幼稚園が来校し、300名の年長児が1学年の劇を観覧することになった。



【成果】

保育園・幼稚園の園児に発表することで、1年生はお兄さん・お姉さんとして自信をもって発表することができた。また、引率で来校した保育園・幼稚園の先生からは、卒園した園児の成長した姿が見られて感激したという感想を多数いただいた。来校した園児が、小学校の様子や園より大きい体育館を体感することで、新1年生として進学する期待を高めることができたという話を聞かせていただいた。

【考察】

幼稚園にとっては年長児が新1年生に進学するに当たって、小学校の様子をつかめることができるという点、小学校にとっては、発表する対象があるということで、目標をもって練習を進めることができるという点で、双方に利点があると考えられる。今年度は、多数の園児の来校にかかわらず、入れ替わりがスムーズに行うことができた。45分の中で園児の移動・児童の発表が行うことができるよう、他学年との調整を行いながら、進めていく必要がある。交流のために新たに練習するのではなく、学習発表会で練習している劇を発表するという点で学校側も、負担無く行うことができている。大がかりな行事にせず、無理のない連携を行っていくことが今後も継続していく上で大切であると考えている。

